



最終章  
先人の記憶を受け継ぐ

受け継がれる  
平和への思い

子どもたちは本の内容に熱心に耳を傾けていました

心を込めて『折り鶴』を歌いました

7月15日、緑ヶ丘小学校で平和集会が開催されました。朗読サークルあらかの瀬戸さんによる広島原爆の話『いわたくんちのおばあちゃん』の読み聞かせ、全校生徒による長崎の平和への歌『折り鶴』の斉唱などが行われ、子どもたちは平和への思いを新たにしていました。

INTERVIEW



寺原蒼真君  
(6年生)

平和集会を通して、平和はとても大切で、戦争は二度とあってはいけません。秋に行く長崎への修学旅行で被爆した人の話を聞く予定です。平和についてしっかり考えてきます。



田口愛梨さん  
(6年生)

平和集会に参加して、改めて、戦争はダメだと感じました。戦争の始まりははじめや差別だと思います。なので、私の周りでそういうことが起こらないように心掛けることから始めます。

慰霊と平和祈念の黙とうを

原爆死没者や戦没者のご冥福と恒久平和の確立を願って、次の日時に1分間市庁舎のサイレンを鳴らします。家庭や職場などで黙とうをささげましょう。

●サイレンを鳴らす日時

「広島原爆の日」8月6日(木) 午前8時15分  
「長崎原爆の日」8月9日(日) 午前11時2分  
「全国戦没者追悼式」が行われる8月15日(土) 正午

**平和な未来のために**  
これからも日本が戦争のない平和な国であり続けるためには、戦争を知らない若い世代が戦争の悲惨さを知る必要があります。あなたの周りに戦争を体験した人はいませんか。その人たちに直接話を聞けるうちに、ぜひ話を聞いてみてください。そして、自分なりに歴史を受け止め、その話を次の世代へ語り継いでください。日本がいつまでも平和であるために。



あの歴史の先で  
今、私たちは生きている

第5章  
先人の記憶を残す

▲荒尾二造変電所跡（中央区）。全長32m、奥行8m、高さ11mほどの半洞窟。崖面を開削して作られ、二造全体への電力供給を行っていました。2階の窓の上には白文字で接収番号「284」と書かれています。

ことし4月、荒尾二造市民の会は「70年目のよみがえる青春―東京第二陸軍造兵廠荒尾製造所―」を出版しました。証言集には24人の二造での体験談が掲載されています。3年かけ、そのほとんどを下津晃さんが一人で聞き取りました。「終戦のとき、私は4歳でした。かすかに戦争の記憶は残っていますが、詳しいことは分かりませんでした。けれど、さまざまな本を読んでいくうちに、戦争の悲惨さを知りました。戦争を体験した人がいなくなってしまいうちに、話を聞かなくてはと思い、聞き取りをすることにしました。」  
出版を待たずして、聞き取りに協力してくれた人が既に3人亡くなったそうです。「人はいつか死んでしまいますが、本はいつまでも人の思いを留めることができます。なので、正確な記録を残すため、同じ人に最低3回は話を聞きに行きました。」  
下津晃さんは若い人にこそ戦争体験者の声を聞いてほしいと言います。「戦争を体験した人はとても苦勞されています。戦争さえなければ、学校へ通ってもっと勉強できたでしょうし、助かる命もたくさんあったはずですが、今回の聞き取りを通して、改めて先人が経験したことを私たちはきちんと知らなくてはならないと強く思いました。戦争の悲惨さを経験した先人が、決して戦争を繰り返してはいけないうちに、警鐘を鳴らして欲しいから、今の平和な日本があるんです。あの歴史の先で、今私たちは生きています。」

INTERVIEW



下津晃さん（大平町）

昭和16年生まれ。郵便局員として勤めたあと、郷土史の研究を行う。代表作に『三池炭鉱写真集―万田坑聞き書き―』『伊勢道中日記帳』がある。現在は荒尾二造市民の会副代表を務める。



『70年目のよみがえる青春―東京第二陸軍造兵廠荒尾製造所―』A5版、125ページ。詳しくはお問い合わせください。  
▲荒尾二造市民の会 山野  
☎090-6424-5123



▲5月31日、パネル討論会が中央公民館で行われました。証言集に証言した吉田さん、米岡さん、松山さん、中西さん（右から）がパネリストを務めました